

DPX II 耐薬品性

「ディスペットEx II」に関する耐薬品性は、接液部の材質に対しての耐性となります。
一般的に使用可能な耐薬品リストは別表一覧をご参照ください。

接液する部材の材質は、ホウケイ酸ガラス,セラミック,ETFE、FEP、PFA、PTFE、
プラチナ イリジウム、PPとなり、この部材を壊すような以下の薬品には使用できません。
(*は注意が必要な液体となります。)

- ・ セラミック、ETFE、FEP、PFA および PTFE を壊す液体。（例:溶解アジ化ナトリウム）
- ・ ホウケイ酸ガラスを壊す液体。（例:フッ化水素酸）
- ・ プラチナイリジウムによって触媒的に分解される液体（例:H₂O₂）
- ・ 硝酸> 60%
- ・ テトラヒドロフラン
- ・ トリフルオロ酢酸
- ・ 爆発性液体（例:二硫化炭素）
- ・ 懸濁液（例:木炭）
- ・ PP を壊す液体。（クロージャキャップ）
- ・ 可燃性媒体は使用できません。
- * 溶解したアジ化ナトリウムは最大0.1%の濃度まで
- * 堆積物を形成する液体は、ピストンの滑らかな動きを妨げる可能性があります。
（例:結晶化溶液/濃縮アルカリ溶液）

以上

DPXⅡ耐薬品一覧

○	アセトアルデヒド		硫酸銅	○	ギ酸メチル
○	酢酸 ≤96%	○	m-クレゾール	○	メチルプロピルケトン
○	アセトン	○	クメン（イソプロピルベンゼン）	○	鉱油（潤滑油）
○	アセトニトリル	○	シクロヘキサノン	○	モノクロロ酢酸 50%
○	アセチルアセトン	○	デカン	○	ニトロベンゼン
○	アクリル酸	○	1-デカノール	○	オクタン
○	アクリロニトリル	○	ジエチレングリコール	○	オレイン酸
○	アジピン酸	○	ジベンジルエーテル	○	シュウ酸
○	アリルアルコール	○	ジクロロベンゼン		過塩素酸
	塩化アルミニウム	○	ジクロロエタン	○	石油
○	アミノ酸	○	ジクロロメタン	○	フェノール
	アンモニア溶液 ≤20%	○	ジエタノールアミン	○	フェニルエタノール
	塩化アンモニウム	○	ジエチルエーテル	○	フェニルヒドラジン
	フッ化アンモニウム	○	ジエチルアミン		リン酸、≤85%
	水酸化アンモニウム ≤20%	○	1,2ジエチルベンゼン		リン酸 85%+硫酸 98% 1：1
	硫酸アンモニウム	○	ジメチルスルホキシド（DMSO）	○	ビベリジン
○	酢酸アミル	○	ジメチルアニリン		塩化カリウム
○	アミルアルコール（ペンタノール）	○	ジメチルホルムアミド（DMF）		重クロム酸カリウム
○	塩化アミル（クロロペンタン）	○	1,4ジオキサン		水酸化カリウム
○	アニリン	○	ジフェニルエーテル		過マンガン酸カリウム
	塩化バリウム	○	エタノール	○	プロパノール
○	ベンズアルデヒド	○	エタノールアミン	○	プロピオン酸
○	ベンゼン	○	酢酸エチル	○	プロピレングリコール（プロパンジオール）
○	塩化ベンゾイル	○	ホルムアルデヒド ≤40%	○	酸化プロピレン
○	ベンジルアルコール	○	ホルムアミド	○	ビリジン
○	塩化ベンジル	○	ギ酸 ≤100%	○	ビルビン酸
○	ベンジルアミン	○	ガソリン	○	サリチルアルデヒド
	ホウ酸 ≤10%	○	氷酢酸（酢酸） 100%	○	サリチル酸
○	ブロモベンゼン	○	グリセリン	○	酢酸銀
○	ブロモナフタレン	○	グリコール（エチレングリコール）		硝酸銀
○	ブタンジオール	○	グリコール酸 ≤50%	○	酢酸ナトリウム
○	1-ブタノール	○	灯油		塩化ナトリウム
○	酢酸n-ブチル	○	ヘキサン		ニクロム酸ナトリウム
○	ブチルメチルエーテル	○	ヘキサン酸		フッ化ナトリウム
○	ブチルアミン	○	ヘキサノール		水酸化ナトリウム ≤30%
○	酪酸		ヨウ素/ヨウ化カリウム溶液		次亜塩素酸ナトリウム
	炭酸カルシウム	○	イソアミルアルコール		硫酸 ≤98%
	塩化カルシウム	○	イソブタノール	○	酒石酸
	水酸化カルシウム	○	イソプロパノール（2-プロパノール）	○	水酸化テトラメチルアンモニウム
	次亜塩素酸カルシウム	○	イソプロピルエーテル	○	トルエン
○	クロロアセトアルデヒド ≤45%	○	乳酸	○	テレピン油
○	クロロ酢酸		塩化マグネシウム	○	尿素
○	クロロアセトン		塩化水銀	○	キシレン
○	クロロベンゼン	○	メタノール		塩化亜鉛 ≤10%
○	クロロブタン	○	メトキシベンゼン		硫酸亜鉛 ≤10%
○	クロロナフタレン	○	安息香酸メチル	※表の「○」は有機溶剤。	
	クロム酸 ≤50%	○	メチルブチルエーテル		
	クロム硫酸	○	メチルエチルケトン		